

氏名:青木 有紀子

実施国:カンボジア王国

協力活動

活動名称

カンボジア王国スヴァイリエン州における農村部女性の雇用創出および収入向上プロジェクト

実施期間

2016年 7月 1日 ~ 2017年 7月 31日

(1)申請した動機

青年海外協力隊の活動の一環としてかかわってきた、女性ハンドクラフトグループの販売活動が、軌道に乗りそうなタイミングで終了した。彼女たちは高い技術を身に着けているものの、他の商品との差別化ができる商品がない点及び、十分な販売ルートを確認していない点が現状の問題点である。その結果現在ハンドクラフトグループが運営されるための土台は築けているが、運営に十分な収益が上がっているとはいえない。協力隊での活動終了後1年間、さらに活動を続けていく中で、カンボジア国内での販売活動での限界もあり、日本での販売を視野に入れて考えるようになった。日本での販売を考えた際に問題となったのは、現在作成している商品はカンボジアからの土産物が多く、日本での販売は難しいという点だ。カンボジア独自の素材を使用した日本でも売れる商品開発にかかる費用と、日本での販売ツールとなるインターネットの整備をするために本プロジェクトへの申請に至った。

(2)活動内容概要

カンボジア独自のものを使用している且つ、他との商品との差別化として、使用する布はカンボジア産の手織りで天然染色の布と、カンボジアの子ども達が描いた絵をプリントした布をオリジナルで作成することにした。(参照資料1)最大の目標を日本で販売し、収益を上げることと掲げたため、日本でのマーケティングを行った。具体的には潜在顧客と直接話ができる、ワンワールドフェスティバル・カンボジアフェスティバル・フェアトレードフェスティバルの3つに参加し、アンケートを取った。最初のワンワールドフェスティバルで取得したアンケートを元に、作成する布に使用する子ども達の絵を決定。カンボジアフェスティバルでは実際に作った作品を販売。この際にアンケートで頂いた内容を元に商品としての改善を行ったものを、フェアトレードフェスティバルで販売。この際のアンケートや頂いた意見を元に、インターネット上での販売する商品を確定する。また個人でのインターネット販売は集客が難しいため、協力隊時代からコラボレーションし、キャラクターのマスコット作成を請け負っていた、(一般社団法人)Social Compassのホームページ内に広告及び販売ツールを置かせてもらい、インターネットでの販売ツールを作成した。

(3)活動の成果・苦労した点・反省点等

活動の成果として、実際に子供たちの絵を使った布で作成した作品46点、手織りの天然染色布で作成した作品2点を売り上げることができた。マーケティングの点でも、合計258枚のアンケートに協力してもらうことができ、今後の商品改善にも生かすことができる資料を手に入れることができた。また直接顧客と話すことができ、多くのアドバイスを頂くことができた。

苦労した点として、私自身の商品開発・販売の知識や縫製の技術に精通していない点である。本やインターネットから勉強したり、知人からのアドバイスを受けたりしたが、十分ではなかった。さらにカンボジアを拠点として活動を行ったため、この点の情報収集には苦労した。また特に縫製の技術に関しては、改善してほしい点の改善方法を具体的にアドバイスできず、試行錯誤を繰り返す状態となってしまった。この状態を脱するためにも、今後は縫製のできる人からのアドバイスを受け、商品が作りやすいようにしていきたいと考えている。

(4)今後のプラン

今回試作品に対して多くのご意見を頂くことができた。しかし、アンケートやアドバイスを十分に反映した商品の開発に至っていない。まずは頂いたアドバイスを満たす商品改良に取り組む予定である。また、アンケート結果で、使用している子ども達の絵を使った布と天然染色の手織り布に関しては好評価を頂くことができた。これらの布を使用した商品ラインナップを増やすことで、魅力的な商品を生み出していくことも、進めていく予定である。販売先に関してはインターネットツールの整備を進めるとともに、今回絵の提供をして頂いた Small Art Schoolの関係者の協力を得ることができることになったので、地道に販売できる場所を増やしていきたいと考えている。